

近世竜山周辺の石工たち

神聖な宝殿山は日本三奇の一つ浮き石で有名な「石乃寶殿」が鎮座しています。この宝殿山周辺の山々で産出する石材を流紋岩質凝結凝灰岩と言いい、通称「竜山石」と呼んでいます。

四世紀頃から掘り出された竜山石は古墳の石室や長持形、刳抜形、家形などの石棺を造り、中世では五輪塔、宝篋印塔、層塔や石仏などの石造物が数多く造られています。

江戸時代も中頃になり、一般庶民の生活が安定した頃、神社仏閣へ奉納や寄進の石造物を造ることが盛んとなります。

播磨各地のお宮やお寺にある石造物に竜山周辺に住する石工の名前を彫った作品が三〇基余り見つかっています。その集落は生石、島、魚橋、塩市、魚崎、高砂、中筋、阿弥陀そして神爪の九ヶ村です。

高砂市以外の播磨各地にも石工の集落が多くあり、

文化財総合的把握モデル事業

ひとまち・石

関係先 教育委員会
生涯学習課文化財係
☎ 448-8255

その主な地域は明石の明石町、加古川の大野、西之山、加西の東高室、東長、西長、加東の吉馬、新町、姫路の船場、龍野の鯨崎、新町や赤穂の加里屋などです。

竜山周辺石工の作品が各地石工居住地近くのお宮やお寺に納められ、中でも、生石、島、魚橋に塩市の石工の活躍が

吉など各市町に及んでいます。製作する石造物は宝篋印塔、常夜灯、鳥居、狛犬、道標や石橋、石仏、記念碑、石段と玉垣そして手洗鉢に雨水受槽などなんでも作っています。

最高の石材「竜山石」を操り一七〇〇年もの歴史と伝統に支えられた石工匠の優秀な加工技術力は当時の一般庶民が求めた芸術的創造品であつたでしょう。

(高砂市史編さん特別執筆
者 藤原良夫)

竜山周辺石工の活躍圏

